

野鳥観察

野鳥のさえずり 聞きなしについて

(July 15, 2008)

皆さんは野鳥の囀り（さえずり）をじっくりと聞かれたことがありますか。ウグイスが「ホー、ホケキョ」と囀るのは誰でも知っていると思います。なぜ、ウグイスは「ホー、ホケキョ」と鳴くのでしょうか。

野鳥は基本的には2種類の鳴き方があるといわれています。ひとつは繁殖期に鳴く「囀り」、もうひとつは繁殖期以外に鳴く「地鳴き」です。囀りの意味はメスに対しての求愛と、縄張りの主張です。この囀りを人の言葉に置き換えたのが「聞きなし」です。それでは、姫路科学館周辺に生息している野鳥の「聞きなし」をご紹介します。

ウグイス（留鳥・・・年間を通して見られる鳥）



ウグイスは2月ころより「法、法華経（ホー、ホケキョ）」と鳴くため別名「^{きょうよみどり}経読鳥」とも呼ばれています。2月ころはうまく「法、法華経」と鳴くことができず、1週間から10日くらい練習をしてうまく鳴くことができるようになります。しかし、8月になると「法、法華経」と鳴くのを止めて「チャッ、チャッ」と鳴くようになります。この鳴き声が地鳴きです。

ウグイスにも天敵がいます。それはホトトギスです。ホトトギスは自分で子育てをせずに他の鳥にヒナを育ててもらいます。これを託卵と呼んでいます。ウグイスの巣で孵化（ふか）したホトトギスのヒナは生まれてすぐに、巣のなかにあるウグイスの卵やヒナを背中に乗せて巣の外に放り出してしまいます。これは、ホトトギスのヒナがウグイスの親から独占して餌をもらうためです。

ホオジロ（留鳥）

里山の代表的な野鳥ですが、年間を通して姫路科学館周辺に生息しています。この鳥は



「源平つつじ白つつじ」とか「一筆啓上つかまつり候（いっぴつけいじょう つかまつりそうろう）」と鳴くと教えられてきましたが、若い人は「札幌ラーメン 味噌ラーメン」と聞こえるそうです。時代が変われば囀りも随分と違うものですね。

ホオジロは木の先端や横枝などで囀っていることが多く、他の野鳥に比べて、比較的、観察しやすい鳥です。

ツバメ（夏鳥・・・春に南の国から渡来して繁殖をして秋に南の国に渡る鳥）

播磨地方には3月10日過ぎに渡ってきますが、ツバメは多くの人知っている鳥だと思います。昔から害虫を食べるために農家の人からは大事にされてきましたが、一時は農



薬散布で弱った虫を食べたために、数を減らした時期もありました。

ツバメは「土喰って虫喰って口渋い（つちくってむしくって くちしぶい）」と聞こえます。これを早口で言うとツバメの囀りになります。皆さんもツバメの囀りをじっくりと聞いてみてください。

昔の人はツバメなどがいつのまにかいなくなってしまうので、冬は土の中に潜って眠るのだと信じられていました。最近足環をつけて渡りの調査をしています。足環をつけたツバメがフィリピンやマレー半島で見つかっています。

メジロ（留鳥）

年間を通じて見られますが、冬、庭先にミカンを切って枝に刺しておくすぐ近くまで



寄ってきます。メジロは目の周囲に白いリングのような羽毛が目立つのでメジロと呼ばれています。

メジロは「長兵衛、忠兵衛、長忠兵衛（ちょうべいちゅうべい ちょうちゅうべい）」を早口で言うとメジロの囀りになります。皆さんも舌を噛まないようにチャレンジしてみてください。

センダイムシクイ（夏鳥）

ウグイスの仲間ですが、播磨地方には4月中旬に渡ってきます。渡り鳥の多くは昼間に餌を食べて、夜間に渡ることが知られています。では、どうやって間違わずに目的地まで渡ることができるのでしょうか。それは、北極星の位置を知っているからです。渡りの時期にプラネタリウムで実験したところ、北極星の位置を少しずつ変えていくと、渡り鳥もそれに伴い、



とまり木で向きを変えることが確かめられています。すごい能力ですね。

センダイムシクイは「焼酎一杯グイー（しょうちゅう いっぱい グイー）」と囀ります。毎日、「焼酎一杯グイー」とは、羨（うらや）ましい限りですね。

野鳥にはいろんな囀りがありますが、その囀りを「聞きなし」という日本語に置き換えて聞くと、自然に対しての親しみも、より楽しみが増すのではないかと思います。皆さんも、散歩をされたりする時にじっくりと聞かれてみてはいかがでしょうか。

三谷康則（姫路科学館）

〒671-2222 姫路市青山 1470 番地 15 姫路科学館発行 TEL 079-267-3962